

安井 修二 博士を送る

安井修二博士（以下では、敬愛を込めて「先生」とよぶ）は、2007年3月末日をもって尾道大学を退職された。

先生は尾道大学経済情報学部を創設するにあたって特に招聘された教授であり、満65歳を定年とする尾道大学教員定年規定の適用外であった。先生は、今回、特に後進に道を譲る形で退職された訳であり、いわば勇退とよぶのがふさわしいであろう。

さて、先生は1933年6月に愛媛県今治市にお生まれになった。1933年の日本は昭和恐慌のまただ中にあり、物価は激落し巷には失業者があふれていた。そして、高橋是清が展開した日本版ニューディールである時局匡救事業の第2年度であった。牽強付会かもしれないが、先生はお生まれになった時から物価と雇用をテーマとする経済学者になるべく運命づけられていたのかもしれない。

先生は戦中戦後の困難な時代の中でのびのびと成長されたようであるが、それを可能にしたのは慈愛にあふれたご母堂がおられたからのようである。先生は1956年3月に松山商科大学商経学部をご卒業の後、神戸大学大学院経済学研究科に進まれた。1958年3月に経済学修士の学位を取得し、1961年3月に同研究科博士課程を単位取得満期退学された。

1961年4月から1969年3月まで母校である松山商科大学において教鞭をとられるとともに雇用と物価問題の研究に取り組まれた。1978年には畢生の名著『雇用と物価の経済理論』が創文社から公刊された。同書の第Ⅱ部は、神戸大学に提出された学位請求論文「産業連関分析の研究—経済循環理論の一般化をめざして」（1966年9月）の主要部分を構成していた。1967年10月に神戸大学から経済学博士（経博第15号）の学位が授与され先生の令名は経済学界を馳せた。

1969年4月には先生の偉業が目された結果であろうと推測するが、慥慥然し難く関西の名門大学の1つである関西学院大学に転出された。同大学において1969年4月から2002年3月までの長い間研究と教育に当り多くの俊秀を育てるとともに、枚挙にいとまないほどの研究論文や教科書を執筆され日本を代表する理論経済学の1人として名を馳せた。なお、関西学院大学では1996年4月から1998年3月まで経済学部長と大学院経済学研究科委員長に就任された。1998年10月には学校法人関西学院常任理事の要職につかれた。2002年3月に関西学院大学を定年退職後ただちに尾道大学経済情報学部に着任された。

先生は、尾道大学から誘いがあった時に今治市の対岸にある尾道市にはかねてから親近感を持ち、尾道短期大学が昇格した、2学部のみからなる新設の大学であったにもかかわらずご勤務することをただちに快諾されたようである。以来先生はご令室の作る愛妻弁当を持って千光寺山の山腹の西斜面にあるマンションから出勤された。先生は、着任から2007年3月までマク

口経済学を中心にして経済学入門外の授業科目を担当され、多くの学生の教育にあたられた。また、2003年4月から2005年3月まで経済情報学部長を勤めわが学部の今日の基礎固めを行った。

2005年4月に尾道大学大学院経済情報研究科が発足したが、先生は選出された経済学部長の職を抛って研究科長を勤められた。先生は、研究科委員会の案内状をご自身で作成して配布した。入学試験では先頭に立って試験の実施をリードされた。また、大学院の授業時間割の作成もご自身で行った。大学院の事務のほとんどをご自身で行う献身的なご努力の結果、わが大学院経済情報研究科は先月5名の第1期生を送り出すことができた。

私が先生の訾咳に接したのはわずかに4年間であるが、先生は物事を処理するにあたり千万人と雖も吾行かんともいうべき、確固とした信念にもとづき遂行されたように思う。また、先生はいわゆる一言居士であり、どのような問題についても積極的にご発言された。今月5日に、満開の櫻にかこまれた千光寺山荘ですばらしい夜景を見下ろしながら先生を送別する宴がもたれたが、お別れのご挨拶で先生は「思っていることをポツというてしまうんや」とおっしゃったが、まさにその通りであった。このことを別の側面からいうと先生のご関心は常に多方面にわたった。先生は、『尾道大学／経済情報論集』（第6巻第1号）に寄稿した玉稿において「われわれが住む現代社会を理解し、その中で生きていこうとすれば、多くの方面に対する知識や関心をもたねば不可能である。」とおっしゃっている。

この送別会で先生がキリスト者であることを初めて知った。先生はあるエッセイの中で「人間の真の救いは、『豊かな』経済や経済学によって与えられるものではない。」と断言していることを紹介しておく。

先生のご功績を高く評価する経済情報学部教授会からの推薦で、尾道大学名誉教授称号授与規定にしたがい、2007年4月1日に尾道大学名誉教授の称号が授与された。

先生は、これからは神戸市にお住まいであるが、わが学部の誇る二人目の名誉教授として、お体をくれぐれもご自愛され、末永く私どもの学部と研究科の今後を暖かく見守っていただきたいと思う。

2007年4月

尾道大学経済情報学部長

尾道大学大学院経済情報研究科長

西 山 一 郎